

ブラジルのオレンジ果汁輸出 EU向けは減少、米国向けは増加

[Cepea 2025年12月19日](#)

サンパウロ大学応用経済高等研究センター(Cepea)が分析した開発・産業・通商サービス省の貿易統計データベース(Comex Stat/Mdic)のデータによると、2025/26年度の最初の5カ月(2025年7月～11月)の期間において、ブラジルのオレンジ果汁輸出は米国向けが増加した一方で、このブラジル産主要商品の伝統的に最大の仕向け先である欧州連合(EU)向けは減少したことが示されている。

米国は7月から11月の期間に、濃縮果汁換算(ブリックス値66)で16万2,800トンを受け取り、前年度の同じ月に記録された数量を25.9%上回った。一方、欧州連合には同期間に16万600トンが輸出され、25.5%の減少となった。

Cepeaの研究者らによれば、2025/26年度産果汁の品質の高さとEUの需要の弱さが、ブラジルの加工業におけるこの商品の在庫の積み増しにつながっており、これが生産者に支払われるオレンジ価格に下押し圧力を生じさせている。

12月15日から18日の期間の生食用ペラオレンジの樹上価格は40.8kg箱当たり平均46.58リアルで、前週比で11.45%下落した。(1リアル=約28円)

エジプト オレンジ輸出はすべての市場で均衡する見通し

[FreshPlaza 2025年12月19日](#)

現在のエジプト産オレンジのシーズンは、過去2～3シーズンの混乱を経て、輸出業者にとって待望の安堵をもたらす見込みであると、アルモスタファ社のゼネラルマネージャーであるイブラヒム・ダワ氏は述べている。

「今シーズンは、大変落ち着いて、より予測可能で、安定した輸出シーズンになると期待している。第1に、ブラジルの回復により、国内のオレンジ加工業が安定した。ブラジルは昨シーズン、市場に巨大な空白を生じさせ、エジプトの加工業者に恩恵をもたらす一方で、生食用オレンジの輸出に大きな影響を与えた。今シーズンはその懸念が1つ解消されたことになる。」(同氏。以下同じ)

「今シーズンのエジプトは、生産が安定し、品質が均一で、サイズ分布も良好である。このことは、異なる輸出業者間でのより平準化した価格形成につながる。」

同氏は、エジプト産オレンジの輸出が様々な国際市場で回復し、それによって欧州市場への過剰供給を回避できると見込んでいる。「あらゆる状況から判断して、オレンジ輸出はすべての市場でバランスが取れる見通しである。モロッコなどの他の生産国との競争が非常に激しいソフト柑橘類とは異なり、エジプト産の輸出時期のオレンジ部門、特に後半のバレンシアオレンジではそれほど競争がない。」

エジプトの別の輸出業者らは、ネーブルオレンジのシーズンは、中国産の供給や南アフリカ産の後半のロットとの間で一定の競争が生じ得るものの、シーズン後半にはバレンシアオレンジの需要が世界の供給量を上回ると予想している。

輸送関係者らによれば、長らく待たれている紅海危機の解決は、2026年4月にすべての船会社が通常運航を再開するまで実現しない可能性がある。しかし、エジプトの柑橘類業界の関係者らによれば、状況は大幅に改善しており、今シーズンのエジプト産オレンジのアジア向け輸出の回復が示唆されている。

「これらすべての条件を踏まえると、輸出シーズンは昨年よりも長くなると予想しており、6月末まで続く可能性がある。これは、より正常で落ち着いた業務環境に寄与する」。

執筆者: ユーネス・ベンサイド

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)